

リスク・レジリエンス工学学位プログラム (博士後期課程)
 Doctoral Program in Risk and Resilience Engineering

授与する学位の名称	博士(工学) [Doctor of Philosophy in Engineering]	
人材養成目的	不安定化する昨今の社会情勢の中で、適切なリスクマネジメントに基づく「強さ」と「しなやかさ」を兼ね備えた安心・安全な国土と地域・経済・情報社会、すなわちレジリエントな社会システムの実現は最も重要な課題である。本学位プログラムでは、「工学的視点から、不測の事態や状況の変化に柔軟に対応し、求められる機能を維持提供し続け、回復する能力」、すなわち、リスクを工学的方法により分析・評価した結果をレジリエンス社会の実現のために活用できる高度な技術をもち、現実社会の問題を見据えて教育研究成果等を社会還元でき、深い理論的基盤に基づく研究能力と高度な技能・実践力を有するアカデミックなグローバル人材の養成を目的とする。	
養成する人材像	高い工学基礎力をベースにリスク・レジリエンス解析・評価のための理論的基盤および高度な関連情報処理技術を修得し、それを広く総合的な視野でリスク・レジリエンス工学の対象である現実の問題に対応させ、高いコミュニケーション能力で研究チームや研究プロジェクトの中で与えられた役割分担を果たし、リーダーシップをとりつつ、工学的手段による問題設定から解決までの具体的方法を創造・開発するのみならず、国際的な場においても高いプレゼンテーション能力を発揮しつつ活躍できる人材	
修了後の進路	情報通信業・運輸業・エネルギー産業・製造業・建設業・金融業・保険業・コンサルタント業・その他サービス業、大学教授職員、国・民間の研究所、国家公務員、地方公務員など	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	学位プログラム提供科目, 特別研究, 特別演習, ケーススタディ, 特別講義, インターンシップ, 博士プロジェクト研究, 博士 PBL 演習, 博士論文作成, 学会発表など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	特別研究, 特別演習, ケーススタディ, インターンシップ, 博士プロジェクト研究, 博士 PBL 演習, 達成度自己点検など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつわかりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質をわかりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときにも、質問に的確に答えることができるか	特別研究, 特別演習, インターンシップ, 博士 PBL 演習, 学会発表, ポスター発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	大学院共通科目 (JAPIC 科目), 特別演習, 博士 PBL 演習, RA・TA 経験, プロジェクトの参加経験など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	大学院共通科目 (国際性養成科目群), 研究群共通科目, 特別研究, 特別演習, 国外での活動経験, 外国人 (留学生を含む) との共同研究, TOEIC 得点, 国際会議発表, 英語論文など
6. 工学基礎力: 工学分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい知識と学力	① リスク・レジリエンス工学分野の幅広い基礎知識を有しているか ② リスク・レジリエンス工学分野の高度専門職業人としての高い学力を備えているか ③ リスク・レジリエンス工学分野の学術的成果を有しているか	学位プログラム提供科目, 大学院共通専門基盤科目, 特別研究, 特別演習, 博士論文作成, 学術論文作成
7. 理論的基盤・関連技術に関する知識: 工学基礎力をベースにしたリスク・レジリエンス解析・評価のための理論的基盤の知識、並びにリスク・レジリエンス解析・評価に関連する高度な情報処理技術の知識	① 複雑な現象に内在するリスクを解析し、レジリエンスの観点から評価するための理論的基盤を修得しているか ② 複雑な現象に内在するリスクを解析し、レジリエンスの観点から評価するための高度な情報処理技術を修得しているか	学位プログラム提供科目, 研究群共通科目, 特別研究, 特別演習, ケーススタディ, 博士論文作成, 学術論文作成

8. 現実問題に関する知識: リスク・レジリエンス工学が対象とする現実の問題に係る深い知識	リスク・レジリエンス工学の対象である多様な現実の問題に関する深い知識を有し、様々な領域における研究課題に対して評価する力を有しているか	学位プログラム提供科目、特別研究、学会・国際会議・セミナー参加、調査等
9. 広い視野と俯瞰力: リスク・レジリエンス工学の対象を広く総合的な視野で捉える能力	リスク・レジリエンス工学の対象を捉えるための広く総合的な視野を有しているか	協働大学院教員提供科目、研究群共通科目、特別講義、インターンシップ、学会・国際会議・セミナー参加、調査等
10. 問題設定・解決能力: リスク・レジリエンスにかかわる問題について、問題設定から工学的手段による解決までのプロセスを深く理解し、具体的解決手段を創造し開発する能力	① 専門的応用能力である問題設定から独自の解決までのプロセスを広く理解し、実社会の問題を見据え、独創的方法によって具体的解決に導くことができるか ② 研究プロジェクトを実施し、研究成果にまとめていく技量を有しているか ③ 研究者倫理および技術者倫理について十分に理解し遵守しているか	特別研究、インターンシップ、博士プロジェクト研究、ケーススタディ、INFOSS 情報倫理、APRIN、RA・TA 経験など
11. グローバル・コミュニケーション能力: 研究チームや研究プロジェクトのなかで、与えられた役割分担を果たし、高いコミュニケーション力をもってリーダーシップをとる能力	① 自らの研究や専門知識について、十分な語学力をもってプレゼンテーションを行うことができるか ② アドバイザーとしてグループ研究活動にコミットしたり、リーダーシップをとりつつ、自らを含む学生相互のコミュニケーションを促すことができるか	特別研究、特別演習、インターンシップ、博士 PBL 演習、学会・国際会議等での発表・質疑応答、共同研究

学位論文に係る評価の基準

以下の評価項目すべてが満たされていると認められるものを合格とする。

<学位論文の審査に係る基準>

1. 学位申請者が研究倫理に則り、主体的に取り組んだ研究成果であること。
2. 新規性を有していること。
3. リスク・レジリエンス工学あるいは関連分野の発展に寄与する有用性を有していること。
4. 論文の構成が適切であり、内容が正しいこと。
 - (1) 論文題目が適切であること。
 - (2) 先行研究の調査が的確であり、研究の位置付けが十分に考察されていること。
 - (3) 研究目的が明確かつ具体的に記述されていること。
 - (4) 研究の方法が目的に合致しており、明確かつ具体的に記述されていること。
 - (5) 結果が正確かつ明瞭に導出されており、信頼性が担保されていること。
 - (6) 考察が結果に基づいて論理的に展開されていること。
 - (7) 結論が明確であり、社会的意義について記述されていること。
 - (8) 引用が適切であること。

<最終試験に係る基準>

学位論文についての説明、関連事項に係る質疑応答の結果と達成度評価の結果に基づく。

<学位論文が満たすべき水準、審査委員の体制、審査方法及び項目等>

学位論文の審査は、主査1名、副査4名以上の学位論文審査委員会を設置し、審査委員会の合議で行う。審査委員は博士の学位を取得しているものとする。主査並びに副査2名以上はシステム情報工学研究群担当教員とする。副査の内、1名以上は本学位プログラム以外から選出する。

主査は、博士論文審査委員会を開催し、学位論文の審査に係る基準に従い論文を審査し、合議の上可否を決定する。上記1.～4.の評価項目すべてについて、学位論文(博士)としての水準に達していると認められるものを、最終試験を経た上で合格とする。

カリキュラム・ポリシー

学位授与の方針(ディプロマポリシー)を達成するために、リスクを工学的方法により分析・評価した結果をレジリエンス社会の実現のために活用できる高度な技術をもち、現実社会の問題を見据えて教育研究成果等を社会還元でき、深い理論的基盤に基づく研究能力と高度な技能・実践力を有する学生を育成するカリキュラムを編成する。

教育課程の編成方針

学位授与の方針(ディプロマポリシー)が達成されるように、後期特別演習と後期特別研究という2つの科目に力点を置く。これらの他に、規定の講義科目の修得により、リスクを内包する複雑な社会問題に対する視野をさらに総合的にし、現実の問題についての知識を深める。これらの学修と専門領域における研究を博士論文にまとめることによって、ディプロマ・ポリシーに挙げた各項目を達成する。

<p>学修の方法 ・プロセス</p>	<p>ディプロマ・ポリシーに掲げた各項目を以下により達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「工学基礎力」はほとんど全ての科目に共通しており、学位プログラムで用意した科目を履修することにより修得する。加えて、大学院共通専門基盤科目により、より幅の広い学修が可能となる。 2. 「理論的基盤・関連技術」はほとんど全ての科目に共通しており、学位プログラムで用意した科目を履修することにより修得する。特に博士特別研究により、複雑な現象に内在するリスクを解析しレジリエンスの観点から評価するための理論的基盤および情報処理技術のより深い修得が可能となる。 3. 「現実問題」はほとんど全ての科目に共通しており、特に専門科目を履修することにより修得する。特に博士特別演習では、多様な現実の問題についての知識を得るために、様々な領域における研究発表を学修し批評することにより、より深い修得が可能となる。 4. 「広い視野」に係る能力はほとんど全ての科目に共通しており、特に企業・研究所等の協働大学院方式に係る教員による科目によって修得する。また、自身の専門以外のリスク・レジリエンス工学特別講義や、協働大学院方式に係る教員によるインターンシップ関連の科目により、より深い修得が可能となる。 5. 「問題設定・解決」に係る能力は、指導教員のもとで自らの研究について深く考察しつつ研究を遂行する博士特別研究、企業・研究所等の協働大学院方式に係る教員によるインターンシップ関連の科目によって修得する。特に博士特別研究では、問題設定から独創的解決までのプロセスを広く理解し、研究プロジェクトを実施し研究成果にまとめていく技量が育成される。 6. 「グローバル・コミュニケーション」に係る能力のうち、「研究チームや研究プロジェクトのなかで、与えられた役割分担を果たし、高いコミュニケーション能力を発揮し、リーダーシップをとることができる能力」は博士特別研究によって修得する。加えて、博士前期課程の学生をグループ単位に分け、1つのテーマに取り組ませるリスク・レジリエンス工学グループ PBL 演習において、各グループのアドバイザーとしてグループ研究活動にコミットするリスク・レジリエンス工学博士 PBL 演習により、より深い修得が可能となる。さらに博士特別演習では、研究発表の座長を務めることで、リーダーシップをとりつつ自らを含む学生相互のコミュニケーションを促す能力を培う。大学教員を志望する学生は、これらの授業科目を PFP (Preparing Future Professionals) プログラムとして活用することができる。 <p>また、「グローバル・コミュニケーション」に係る能力のうち、「国際的な場において高いプレゼンテーション能力を発揮し、活躍することができる能力」は、自らの研究や学修について外国語でプレゼンテーションを行うことが義務付けられている博士後期特別演習によって修得する。加えて、博士特別研究を通じて指導教員からの指導を受けつつ自らの研究を遂行し、成果を国際会議等の場で発表することにより、より深い修得が可能となる。</p> <p>各項目の達成状況は、次に記述する達成度評価によって定期的にチェックし、到達度に応じて、当該学生の達成度評価委員を務める教員が適切な助言を与える。</p>
<p>学修成果の 評価</p>	<p>次に述べる達成度評価システムによって、教育の質保証を行う。</p> <p>達成度評価項目として、後期課程では以下の7項目について達成度評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学術的基盤:分析手法の理論・考え方、リスク・レジリエンスに関する学位にふさわしいレベルの知識・スキルを備えているか。 ② 現実問題の知識:現実の問題、実社会の問題について、博士(工学)の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか。 ③ 広い視野:博士(工学)の学位にふさわしい視野の広さを有しているか。 ④ 問題設定から解決まで:専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを深く理解し、実社会の問題を見据え、独創的方法によって具体的解決に導くことができるか。 ⑤ プレゼン・コミュニケーション能力:博士(工学)の学位にふさわしく、高いコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を有しているか。 ⑥ 国際的通用性:専門分野において国際的に通用する学識を備えているか。 ⑦ 学術的成果:博士(工学)の学位にふさわしい学術的成果を有しているか。 <p>達成度評価は、各年度に2回実施される達成度評価委員会において、各学生が3名以上の教員と面談し、評価を受けることによる。評価結果は学生にフィードバックし、その後の学修改善に利用する。最終回の達成度評価において、すべての項目について博士(工学)の学位にふさわしいと判定された場合に、最終試験に合格したと見なす。</p>

アドミッション・ポリシー	
求める人材	<p>広くリスクに関する理解と対策に関心を持ち、学際的立場からリスク・レジリエンスに関わる現実の問題について、分野横断的な俯瞰力をもってその解明と評価に取り組もうとする人材を求める。工学の基礎としての数学や情報処理技術の基礎力を備え、実社会で国際的に活躍するための語学力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力をもち、産学連携や社会連携、教育研究成果等の社会還元について向上心をもつ人を歓迎する。</p>
入学者選抜方針	<p>入学者の選抜にあたっては、一般入試および社会人特別選抜などの入学者選抜方式によって多様な入学志願者に対応するとともに、募集人員を分割し同一年度内に複数回の入学試験を実施する。入学者はプレゼンテーションと試問からなる口述試験により選抜する。また、社会人特別選抜の枠内において、社会人が在職のまま東京キャンパスにおいて教育を受けることができる昼夜開講制(社会人のための昼夜開講プログラム)を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部進学制度選抜では、リスク・レジリエンス工学位プログラム(博士前期課程)の修了予定者の中から、特に高い基礎力及び研究能力を備えた人材を選抜する。 ・一般入試では、一定の基礎力及び研究能力を備えた人材と選抜する。 ・社会人特別選抜では、基礎力及び研究能力に加え、社会人としての実績や経験を評価する。